

平成24年12月11日

総務文教常任委員会 会議録 審査内容

◇会議録

- 1 日 時 平成24年12月11日
開会 16時45分 閉会 17時25分
- 2 場 所 幕別町役場 5階会議室
- 3 出席者 6名
委員長 牧野茂敏
副委員長 野原恵子
委員 寺林俊幸 藤谷謹至 小島智恵 千葉幹雄
- 4 傍聴者 谷口和弥 中橋友子 増田武夫 斉藤喜志雄 平田記者（勝毎）
- 5 事務局 局長 米川伸宜 課長 萬谷司 係長 金田恭之
- 6 審査事件 1 付託された陳情の審査について
(1) 陳情第18号 「米海兵隊の垂直離着陸輸送機オスプレイの配備撤回を求める意見書」の提出を求める陳情書
2 その他
- 7 審査結果 別紙

委員長 牧野 茂敏

◇審査内容

(16:45 開会)

- 委員長（牧野茂敏） ただ今より、総務文教常任委員会を開催いたします。本日は継続審査となっております、陳情第18号「米海兵隊の垂直離着陸輸送機オスプレイの配備撤回を求める意見書」の提出を求める陳情書についてであります。

最初に前回、事務局にお願いしてありました、十勝管内の対応状況についてお願いをいたします。局長。

- 事務局長（米川伸宜） お手元に配布しました資料についてご説明いたします。最初にオスプレイの配備撤回を求める陳情書の審査状況という一覧表でございます。十勝管内19市町村の状況でありまして、帯広市以下、議員に参考資料として回覧、配付したというところが、7市町村でございます。幕別も9月に、ここにありますように北海道自治労連から郵送されましたので、そのときには写しを議員回覧しております。

意見書として提出している、する予定がまず、新得町でございまして、順番に挙げます。新得町の要望意見書もお手元に配布になっているかと思えます。ここに書いてありますように12月3日常任委員会に付託があって、この網掛けで「欠陥機と言われている」というところを削除した上で、12月19日、本会議で修正、可決される予定と伺っております。

それから下の方、本別町でございまして、もう一枚、両面コピーで意見書案第7号、24年9月13日、裏面に意見書案がついているのが本別町でございまして、ここにつきましては9月13日に可決になっております。裏の意見書案の真ん中当たりでしょうか、4月にモロッコで、6月に米国のフロリダで墜落を重ねている欠陥機です。こちらは、「欠陥機です」という字句が入ったまま、意見書が可決になっております。なお、本別町の議会事務局長から、これについては可決になったけれども、相当の議論があったと聞いております。以上でございます。

- 委員長（牧野茂敏） ただ今、説明がありましたけれども、これについてはよろしいですか。それでは、陳情第18号について先日もご意見いただきましたが、改めてみなさんのご意見をいただきたいと思えます。ご意見ありますか。野原委員。
- 副委員長（野原恵子） 前回の総務常任委員会で、オスプレイの事故についてということでは、さほど他の戦闘機と事故の割合は変わらないのではないかという意見が出されました。私も資料を調べてみたのですが、オスプレイと他の戦闘機との事故の評価ということでは、3段階に分かれて評価しているということなのです。

クラスAという表現なのですが、これは200万ドル以上の損害、そして、死傷者が出た場合。クラスBというのは、50万ドルから200万ドル未満の損害とか、一部障害が残る負傷者が出た場合。クラスCというのは、5万ドルから500万ドル未満の損害や軽傷者が出た場合。このように3段階に分かれているということなのですが、このオスプレイの死亡事故というのは2007年から2011年度の中では、クラスAの事故は2件起きているということなのです。

B、Cということで一覧も資料にあるのですが、B、Cで一番事故が多いのはこのオスプレイ。ここが、事故率が一番高いということで、攻撃ヘリですとか、攻撃機、そういうものも9つの攻撃機と比較しますと、平均は0.9ですが、NV-22オスプレイは3.80という資料があります。またCでは平均では3.58なのですが、オスプレイでは11.41。これはアメリカの海兵隊の公表資料に基づいてですから、明らかに事故が多いということは、このアメリカの資料でも明らかになっております。

そして、このオスプレイの機能としては、エンジンが何らかの理由で停止した場合には、機体の降下、空気の力で回転翼を回して揚力を生み出して緊急着陸する方法。オートローテーションというのですが、その機能が備わっていない。これが欠陥機と言われる一つの大きな理由です。これは、日本の国内法では、こういうものがない場合には飛行を禁止されています。それがオスプレイにはないということで危険だということなのです。

私達の役割としては、こういう危険なものを日本の国民の安心、安全、命を守る。こういう立場から、アメリカの資料でさえ事故が多くてオートローテーション機能がない、国内法で禁止されている。こういうものを日本の空に飛ばしていいのか、訓練で飛ばしていいのか。こういうところでは本当に危険な飛行だと私は思っております。

- 委員長（牧野茂敏） ほかにありましたら。小島委員。
- 委員（小島智恵） 今、事故率についてお話がありました。私も防衛相のホームページを調べました。10万飛行時間あたりのクラスAの飛行事故の件数ということで、これが事故率の定義になっております。今、クラスA、B、Cという話が出ましたけれども、Aが死亡等の重大な事故です。B、Cの話も今、出ましたが、このB、Cをよく検証してみますと、整備中に落下した等、機体の安全性に関係ない事故まで含まれてカウントされているという状況です。B、Cは軽微なものも含まれている。

クラスAの死亡事故といった重大な事故、それはどういった件数に上がるのか、先ほども話し合ったかもしれませんが、MV-22のオスプレイだと飛行時間10万3,519時間あって、件数が2件、事故率1.93になっています。いろいろ事故が起きているという話で、この陳情書の中にも開発段階から重大な事故を起こしていると書いてありますが、実際に事故は起きています。2000年12月の時点で4回の事故を受けたということで、海兵隊はいったんオスプレイ、MV-22の飛行を停止しております。停止した上で改良に改良を重ね、2002年5月に飛行を開始。2005年9月には全ての信頼性、安全性基準を達成し、量産化を決定した。そこで安全性が確認されて、実際に飛行されているという経緯になっております。米海兵隊平均の事故率は2.45。今、言ったのは1.93なので、米海兵隊平均の事故率の2.45を下回る安全性があるということですが、10万飛行時間の想像がつかなかったのですが、仮に数字を当てはめて計算してみたのですが、毎日8時間飛んだとします、そうすると1万2千500日飛ぶことになりまして、365日で割ると、34.24年。事故率1.93。仮に2で割りますと、17年に1回事故が起こるといった1.93の事故率になっております。よって、安全ではないかと感じております。

また、この陳情書の中にアメリカフロリダ州の墜落事故が6月にあったと書かれておりますけれども、これは現在、日本に配備されていないオスプレイであります。CV-22の空軍オスプレイ、攻撃型であります。日本に配置されているのはMV-22、海兵隊オスプレイで、これは輸送型となっております。こういった違う種類のものも混ぜられて陳情書に載せられていると思います。

また、オートローテーションについてですけれども、これも防衛省の資料になるのですが、元々オスプレイは動力システムがあるということで、2機のエンジンが同時に故障する可能性は極めて低い。100億時間に1回発生する確率となっていて、その他にも1機のエンジンのみで両方の翼のローターを回転させ、飛行持続可能だとか、何段階も機能が備わっているということです。結論としては、オートローテーションを求められる場面はほとんど想定されない。10万時間を超える飛行実績において、両エンジンが同時に出力を喪失した事態は一度も発生せずということで、想定されないということ

です。

ただ、そういったオートローテーションに係る機能自体は、仮に両エンジンが出力喪失した場合の処置としても載っていますけれども、まずその2機のエンジンが同時に喪失するということはほとんどないので、安全です。元々そのオートローテーションというのはヘリコプターについている機能のようで、これがあるからと言って、確実に安全に着陸できるわけではない。前進速度や高度が不足している場合にはオートローテーションに移行する前に墜落してしまう可能性もあるということです。これはヘリコプターについてですけれども、オスプレイに関してはあまりそういったシステムの必要性はないとなっております。

こういった国難が迫っている、中国の脅威が迫っているという中で、私は配備撤回というのは甚だ遺憾でありまして、マスコミは危ない、危ないと何度もテレビ報道等でオスプレイの反対運動等を繰り返し報道して、いかにも危ないような報道をされていますけれども、実際調べてみますと、それほど危険ではない。それよりも、自分の国を守るという決意がまず大事だと思います。オスプレイを撤回して喜ぶのはどこなのですか。それは中国ですから、私は日本を守る決意をしたい。日本人がしなくて誰がするのか。ということで、日本を守りたいので、オスプレイの配備を賛成致します。

- 委員長（牧野茂敏） 危険度についてはお二人で意見が分かれたわけですがけれども、意見をいただきたいと思います。千葉委員。
- 委員（千葉幹雄） 資料を読ませていただいたのですがけれども、この文面にあるような極端に事故がこのときに限って多いということはない。それぞれ見方によっても違うのでしょうけれども、ここには欠陥機とは書いていませんけれども、他の飛行機・ヘリコプターと比べて特に事故率が高いということは認識されないと思っております。

そして、野原委員もおっしゃったように、オートローテーション機能なのですがけれども、このMV-22というのは、機能自体は持っているということなのです。ただ、オートローテーションが作動中の降下率、回転翼が小さいものですから、他のヘリコプターから見ると落ちる率が高いということはありませんけれども、特にそれが飛行機として著しい欠陥に繋がるようなことではないということが書いてあります。

何をもちて危険か危険でないかというのは、それぞれの主観といいますか、尺度がそれぞれ違うのでしょから一概に言えないのですがけれども、私はここで言うほど、特に危険な飛行機だという認識はできない。そしてまた、沖縄、尖閣、中国、あるいは北朝鮮。いろいろな軍事的な緊張感がある中で、オスプレイが危険だからと言って配備撤回。それはそれとして一つの議論が成り立つのでしょけれども、そうしたときに、どうして外国に対する抑止力といったものを保つのかという、その辺まで考えないで「危ないから駄目だ、危ないから駄目だ」だけでは、日本の国を守る議論をそこまでしていかないと、片手落ちの議論にしかならないのだからと思います。ですから、ただ「危ない、危ない」、だから「来るな、来るな」ということではなくて、もし来なかったらどうするのだというところくらいまで掘り下げてやらないと、責任のある議会としては、いかなものかという気がしております。

- 委員長（牧野茂敏） 野原委員。
- 副委員長（野原恵子） 欠陥機ということでは、この事故率もさることながら、このオスプレイの操縦はコンピューターで行うということで、パイロットが操縦するのではないという戦闘機になっています。ですから、訓練を沢山しなくてはならないとか、いろいろコンピューターに合わせてやらなくてはならないという戦闘機でもありますし、

低空飛行を何故するか、低空飛行が問題だということも言われているのです。敵のレーダーに見つからないようにするために、低空飛行が訓練の一つだと言われています。これは今まで日本の国で低空飛行するというのは、アメリカは日本にきちんと示していなかった。このオスプレイが来て訓練するというところで、初めて国内で低空飛行をやっているということが明らかにされまして、それは日本全土で6コースに分かれて行うということで、今、全国の知事会でもこれには危険だということで反対を表明しています。

それから、北海道の知事も、米軍のある地域の知事もこれは危険だから、訓練はやめて欲しいという要望も国に出しているのです。ですから、本当に安全だとおっしゃるのであれば、知事会でも賛成ということになると思うのですが、今、知事会でも反対だと表明しているということは危険だということの証明ではあると私は思っております。

それともう一つ、抑止力だとお二人はおっしゃるのですが、抑止力ということであれば、やはり今、北朝鮮のミサイルの発射ですとか、中国の海軍の海洋進出ですとか、そういうことは抑止力になればされないとと思いますが、実際にミサイルを発射するのではないと言われてしています。何の抑止力にもなっていないと私は思います。

何でアメリカが日本にオスプレイを配備したいのか。世界にも米軍の基地はあると思うのですがけれども、日本で12機から24機配備されるのではないかとというのは、一番は日本には思いやり予算というのがありまして、そういう米軍の基地のあるところに日本のお金が使われています。それがだんだん大きくなってきて、今、5,556億思いやり予算が使われておりまして、さらに2011年～2015年までの期限で1兆円近い思いやり予算が国会で承認されているのです。そういうところで、やはり訓練をして配備もして、米軍に対する予算を思いやり予算で行う。そこにアメリカが危険な、まだ十分に機能も開発されていないオスプレイを訓練する。そこに大きな問題があると思うのです。だから、沖縄の県民たちがあれだけ大きな10万3千人も集まって反対をしている、知事会も反対をしている。そういう状況だということ認識していくことが必要ではないかと思えます。

- 委員長（牧野茂敏） ほかに、寺林委員。
- 委員（寺林俊幸） まず、この陳情書の中にあります、オスプレイのMV-22の危険性については、それぞれの委員の方々が危険性をアピール、または事故はそんなに起きていないというような話です。実際は大きな事故も起きているという中で、問題とする、一番危険だというのは、垂直飛行から水平飛行に変わる時点でオートローテーションが効く飛行高度まで上がっているか、上がっていないかという問題があって、先ほど野原委員も言われているように、低空飛行で飛行する、これが一番危険な状況だと、僕が調べた中ではあったわけです。それがある程度の高度まで到達して、それから水平飛行に移る分に対しては、オートローテーションもしっかり効いて安全なヘリコプターであるということも書いてありますけれども、それを実際に普天間基地、あの状況の中で低空飛行を行う。当然、現実には低空飛行をやられている。訓練も行われていることは大変危険な状況だと思えますし、それがまして、日本全国の米軍基地があるところでも訓練を行うというようなことについては、地元住民も当然ですけれども、日本として住民が危険にさらされる中で、いろんな国防条件の中にもあると思えますけれども、国民の安全を守っていかなくてはならないということが必要だと思えます。

また、日本の国防の中でアメリカの力を使わなければなかなか守っていけないという話がでていましたけれども、それはそれとして、それがあれば、前もって配備される住民にある程度の説明もあって必要ではなかったのかというようなことから、こ

の陳情書については、僕は賛成をいたします。

- 委員長（牧野茂敏） 藤谷委員。
- 委員（藤谷謹至） 意見が二つに分かれている状況なのではけれども、安全であるか安全でないかでオスプレイの導入を賛成反対すると安易なことというか、それ以上に、日本の安全保障や外交政策、防衛対策。いろいろな複雑な要素が絡んでいる中で、単に安全か安全ではないかによってオスプレイを配備するか、配備しないかという単純な問題ではない気がするのです。やはり現状としては沖縄に住んでいる方々の安心安全ということは到底考えられない。沖縄県民の心情を考えると、普天間基地のこの危険性というのもよくわかりますし、北海道にオスプレイが飛んできたら反対すると思いますし、本当に普天間基地自体が危険性をはらんでいるという現状があります。

幕別町議会として、ただちに賛否を取るという安易な問題でもないような気がしますし、実際、今、衆議院選挙の真っ最中でありまして、民主党政権における中での陳情だと思っております。政権が変わるとどのような政権の方向性が出るか、わかりません。ですから、両方わかるのです。一方は危険である。一方の情報によると危険ではない。もう少し時間をかける必要があるのではないかと。この問題はさらに継続した方がいいのではないかと私は思います。

- 委員長（牧野茂敏） 千葉委員。
- 委員（千葉幹雄） 私も今、一委員として発言させてもらったのですが、実は党派の中の相談ごとでありますけれども、話題の通り、日本国内騒々しい状態になってまして、それぞれ忙しくて今日朝から断続的に打ち合わせもしたのですが、未だ結論を見るに至っていないわけでありまして。願わくは、今日のところは継続ということにさせていただければありがたいと思います。

そして、今、藤谷委員がおっしゃっていた件に関してですけれども、16日投開票がありまして、どういった政権の枠組みができるか、今のところわからないのです。もし変わるようなことがあれば、この問題についても、以前は世界一危険であろうと言われる普天間を、飛行場を辺野古に移そうという、沖縄の人たちの危険の軽減。また、騒音の軽減。そのようなことで、一つの流れが出来ていたわけです。それが途中で頓挫したわけでありまして、政権が変わることによって、またそういった流れが出てこないとも限らないと思います。

それで私は、もう会期、残すところ何日もありません。16日投開票で新しい枠組みが決まるのはおそらく、私どもの会期が終わる前後、後になるかも知れません。そういうことも踏まえまして、閉会中の継続審査を希望したいと思います。

- 委員長（牧野茂敏） ただ今お二人の方から継続審査というお話が出ました。できれば閉会中の継続審査ということで進めたいと思いますがよろしいでしょうか。野原委員。
- 副委員長（野原恵子） 選挙の関係で、投開票が終わってからの状況を見たいというお二人の意見だったのです。そうしますと、投票は16日で、21日が最終日ですから、それまでにまだ時間がありますので、私はまだ会期中の継続審査を望んでいきたいと思っております。
- 委員長（牧野茂敏） 今、言われたのは政権の枠組みが決まってからというお話だったので、21日には無理だろうというお話だったのです。私としては閉会中の方がしっかり議論できるかと。意見をこれだけ戦わせるのであれば、しっかり枠組みが決まってからというのわかりますし、どうでしょうか。よろしければ、閉会中の継続審査とさせていただきます。よろしいですか。

- 委員（はい、の声あり）
- 委員長（牧野茂敏） それでは陳情第18号につきましては、閉会中の審査とさせていただきます。野原委員。
- 副委員長（野原恵子） 閉会中とおっしゃいましたけれども、まだ3月まであるわけで、どのくらいの時期の閉会中なのか、何か月も延ばすというのもあれですから。私は、本当は21日までとは思っているのですけれども、みなさんが閉会中というのであれば、早い時期に結論を出すということが必要だと思います。
- 委員長（牧野茂敏） 休憩させてください。

（暫時休憩）

- 委員長（牧野茂敏） 再開をいたします。それでは、陳情第18号につきましては、閉会中の審査といたします。
次にその他でありますけれども、お手元にコミュニティバスの運行経費の試算について、企画室から、この間資料請求したものが出ております。これについて説明がもし必要であれば企画室に来てもらいますけれども、読んでわかるようであれば、このままお持ち帰りいただいて読んでいただきたいと思いますと思いますが、それでよろしいでしょうか。説明はいらいいますか。それでは、お持ち帰りをいただいて読んでいただきたいと思います。事務局長。
- 事務局長（米川伸宜） 前回、閉会中の継続調査項目について広報広聴に関する事項、それから住民活動に関する事項というお話がございました。広報広聴に関する事項として、町のホームページが2月1日にリニューアルする予定で進んでおります。議会のホームページも合わせて今、作業を進めるところなのですが、リニューアル後のホームページについて調査するのであれば、2月上旬以降になろうかと思っております。以上です。
- 委員長（牧野茂敏） 今、言われたように、2月上旬以降に所管事務調査を行いたいと思っております。暫時休憩します。

（暫時休憩）

- 委員長（牧野茂敏） それでは、他になければ終わりたいと思っております。以上で総務文教常任委員会を閉会いたします。

（17：25 開会）